

多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩

災害対応セミナー 「災害時の外国人への情報伝達から学ぶ多文化共生 ～『やさしい日本語』の可能性～」

講演者：弘前大学 人文学部 社会言語学研究室 教授 佐藤和之氏

(基調パネルディスカッション「東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた多言語化」からの継続講演として)



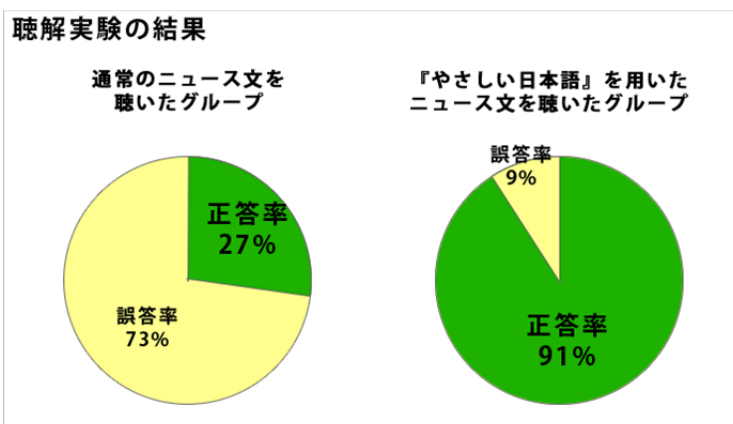
私が今日ここで取り上げる『やさしい日本語』は、大規模災害の際に、被災外国人へ情報を的確に知らせる方法として、約 2000 語を 13 の規則にそって伝える「災害発生後 72 時間」のための日本語です。日本に住んで 1 年程度の外国人なら、漢字圏/非漢字圏の出身問わず、等しくかつ確実に、避難誘導や注意喚起などの情報を理解できる表現としているものです。

『やさしい日本語』の表現は、阪神・淡路大震災(最大震度 7 : 1995 年)、新潟県中越地震(最大震度 7 : 2004 年)、東日本震災(最大震度 7 : 2011 年)で、被災外国人に伝えられた情報に基づくもので、熊本県・大分県大地震の被災地でも使われて、伝達方法の改善に活かされているものです。

人間がパニックに陥るのは、情報が不足して、自分がどうすればいいか判断がつかなくなるからです。地震災害や津波災害への知識が不足している外国人でも、情報が適切に伝われば、自らの身を守る行動を判断でき、パニックになりません。『やさしい日本語』は、災害時に「何をすべきか」の行動指針が分かる構造になっており、さまざまな母語を持つ外国人が、大きな災害の直後でも安全な行動を確実に起こせる表現にしています。従って、外国人自らが身の安全を図ることができると同時に、大きな被害のなかった外国人は、助ける側になることもできるのです。

ネイティブスピーカーでも、パニックになると言語の理解力が落ちます。英語では、Grade4 (小学校 4 年生程度) の言葉で伝えるようにとされていますが、『やさしい日本語』では 3 年生程度で理解できる言葉にしています。言葉が理解できる人が増えれば、理解できない人を援護することができます。

東京在住の外国人のうち、76%は日本語が理解できるといわれています。2012 年の調査では、『やさしい日本語』なら 85%が理解できました。通常のニュースでは約 25%でも、それを、『やさしい日本語』にした場合には、91%が理解できました。「ゆっくり、やさしい」日本語にすることは、外国語に翻訳することより簡単です。



熊本県、大分県の地震で、『やさしい日本語』のホームページのアクセス数が増えたので、クイックリファレンスとして、避難所の案内、熱中症対策等についての例文をまとめてアップしました。

<<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ-kuikkurefa.html>>

阪神大震災の際のニュースの文章を例に、実際の『やさしい日本語』の表現を紹介します。

**阪神淡路大震災のとき
実際に放送されたニュース**

「やさしい日本語」文

けさ5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で、大きい揺れに見舞われました。

今日、朝、5時46分ごろ、兵庫、大阪などで、とても大きい、強い地震がありました。地震の中心は、兵庫県の淡路島の近くです。地震の強さは、神戸市、洲本市で、震度が6でした。

このニュースの文例では、「地震」の1語に、時間、場所、大きさ等の形容詞が多く付いて、「～があり」「～など」の接続詞で文章が長く続く一文となっているので、外国人には理解しにくい文章です。

『やさしい日本語』文の例のように、平易な言葉を使って、短く文章を区切れれば、ラジオなど（雑音で）途中で途切れたり、分からなくなったとしても、次の文章からまた聴き始めることができます。

災害時は、まず自治体の防災無線や広報車、コミュニティラジオなどで放送が行われます。その際に、1文をひらがな30文字以内とし、1分に約360文字までとすれば、外国人にもよく伝わります。『やさしい日本語』のホームページには、災害発生から180分までに伝えるべき情報の案文を、時間軸に沿って用意しています。

また、避難所等において、貼り紙で情報を伝える際は、題名だけでも外国語を加える、また、イラストを使うなど、外国人にも目に留まるように工夫する必要があります。

阪神大震災の際の兵庫県内の言語別死亡者数は、韓・中がほとんどで、英語話者は3%でした。また、東日本震災の時に被災した外国籍の方は、160ヶ国に上り、その言語全てに、行政が対応することは、殊に災害時は困難です。

『やさしい日本語』ならば、行政の負担にならず、かつ外国人だけでなく日本人住民にも確実に伝えることができ、この利点は大変大きいはずです。

ただし『やさしい日本語』も万能ではなく、例えば医療、法律、司法などの用語をやさしくすることはできません。『やさしい日本語』は、災害発生から72時間の安全のための活用を想定しているもので、Basic(基本的)、Simple(簡単)、Plain(平易)Englishのうち、Plainにあたります。現在、日常使える『やさしい日本語』の作業を進めています。

【質疑応答】

Q1 災害発生後72時間の中で、どんな情報を『やさしい日本語』で伝え、また、どうやって使えばいいでしょうか。

A1 現在、605事例あります。『やさしい日本語』ホームページには、ガイドラインのほか、『やさしい日本語』で文章が作れているかどうかを判定する、「やんしす」<

<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>>というソフトがあり、弘前市役所で実証されてい

ますので、これらをご活用ください。

Q2 日本に1年程度滞在している外国人の80%以上が理解できるとのことですが、それ以下の滞在者は？

A2 これ以上簡単な文章にすると、命を救うという目的が達成しづらくなります。1年未満の滞在者に日本語で伝えるのは難しいので、1年以上の滞在者と行動を共にして、意思疎通を図ってほしいと思います。

Q3 1分で360文字程度とのことだが、それ以上では難しいのでしょうか？

A3 実験によれば、1分間400文字程度で「ちょうどよい」と回答する人が多かったのですが、実際には360文字程度の内容しか覚えていませんでした。また、1分間360文字というのは、日本人にも「これなら子供やお年寄りにもわかりやすいね」と言われる数値です。人種・年齢による有意差はありませんでした。これ以下の文字数にすると、外国人の理解率は少し増えますが、逆に日本人にとっては遅すぎるという不満が生じます。

Q4 女声、男声で違いがありますか

A4 「緊張感を伝えて早く逃げる」目的なら、高くて早めの声、「情報を正確に伝える」目的なら、速さ(文字数)をキープし、声の高さは媒体によって選択してください。

Q5 日常から『やさしい日本語』を使い慣れておくほうが良いのでは？

A5 『やさしい日本語』は災害時には有効ですが、日常の生活情報を伝えるには、シンプルすぎて合いません。現在、病院などで日常的に使えるレベル(カテゴリー2)を作っていますので、カテゴリー2でトレーニングして、災害時にはカテゴリー1の『やさしい日本語』が使えるのが良いでしょう。

「多言語対応・ICT化推進フォーラム in 多摩 ～2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」

参考資料配布：<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/references/160705forum.html>